

教員名	尾高 直子 (ODAKA Naoko)
所 属	人間文化研究科
学 位	人文博士
職 名	リサーチフェロー
URL/E-mail	なし/odaka.naoko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

平安和歌 / 和泉式部 / 表現

◆主要業績

総数 (1) 件

- 『日本女性文学大事典』市古夏生・菅聡子編 浅井清編集協力 日本図書センター 平成18・1
(有智子内親王・小式部内侍・賀茂保憲女 執筆担当)

◆研究内容

2004年度に提出した博士論文において『和泉式部集(特に続集末尾にある日次歌群)』や『源氏物語』の表現に、『信明集』の歌物語化された歌群の影響が見られることを指摘した。和泉式部や紫式部が仕えた彰子のサロンにおいて『信明集』の歌物語化歌群が愛読され、作家たちが次々とこの表現を受容し各々の作品を創作していったことを考察した。しかし、そこには既成の古歌を引く際に贈答歌や歌群全体を意識化において引くことがあるのかということが問題点として残ったため、それを解明すべく、それぞれの作品の表現に着目し影響関係を分析した。

また、リサーチフェローという職は職務に縛られず自由な場所で研究できる職種なので、夫の転勤に伴い2005年度の3分の2はウィーンで活動したが、8月31日～9月3日に「11th International Conference of the EAJS European Association for Japanese Studies」に参加し、海外における日本文学研究に触れた。その後、ウィーン大学の日本語学科(学部・修士)の授業に定期的に参加、他の国の教授とも意見交換を重ね海外における日本語教育の実情を分析した。

◆Research Pursuits

In the thesis, which was submitted in 2004, I noticed the expressions in *Izumishikibu-Syu* and *The Tale of Genji*. The same expressions of two works are also seen in *Saneakira-Syu* which is a work of waka before Izumishikibu flourished as a writer. Then the analysis makes it clear that they accept the expressions in the previous works such as *Saneakira-Syu* when they serve Syoshi as *Nyobo*. But the thesis has a problem that the writers in Heian period accepted the expressions in not only a *waka* but also a work of *waka*. Now I analyze this point through another works in Heian period.

Research Fellow is a kind of occupation which is permitted to study anywhere I like. So I am living in Vienna with my husband most of 2005 and took part in 11th International Conference of the EAJS to see the present condition of Japanese literature studies. After that I am taking part in the class of the department of *Japanologie* in Vienna University to analyze the circumstances of Japanese education.

◆将来の研究計画・研究の展望

和泉式部続集末尾に存する「日次歌群」の表現を通して、和泉式部の作歌活動の実態を明らかにし注釈を施す。さらに『和泉式部日記』との相違も分析し平安時代の文学のあり方を追究する。また、平安文学研究のグローバル化を視野に入れ、海外の研究者・学生が活用できるようなテキストを考案したい。現在、海外における日本語教育において、平安文学が取り扱われることは稀である。平安文学の実態を中心にしたテキストを通して平安文学研究の活性化を図りたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・平安文学研究の国際化

◆受験生等へのメッセージ

お茶の水女子大学の長は女子大であるということに尽きます。学部生の折より十数年間お世話になってきましたが、いわゆる性差を感じることなく、真摯な態度で研究に打ち込む仲間の中で切磋琢磨して学問を追究できる環境であることを痛感してまいりました。女性であるが故に、結婚・出産という問題はどうしても研究活動の障壁となる場合が多いと思われませんが、本大学は自由な場所で研究に励めるリサーチフェローという職種を設置することを試み、女性の生活を十分に考慮しています。私も現在妊娠中、間もなく出産を控えています。研究活動を再開しやすい立場で出産を迎えられることに感謝しています。女性は未だに自由の利かない人生を強いられることも多いので、学問を継続するに当ってはよく将来の環境を見定めの上で学部・大学院を選ぶ必要があると思います。